

令和5年度

# 学校評価

〈実施期間〉

自己評価 R.6.1.15(月)～1.22(月)

保護者アンケート R.6.1.15(月)～1.22(月)

学校評価委員会 R.6.2.16(金)



都留市立都留文科大学附属小学校

## 2023年度 都留文科大学附属小学校 学校評価（自己評価）

☆今年の括弧評価は、昨年度とほぼ同様、学校として重きを置いて指導を進めてきた項目、並びに次年度の学校経営に必要と思われる項目について絞って評価を行う。  
（6大項目24小項目）

### 評価項目

- 1 学校教育目標・学校経営・学級経営・教職員組織について
- 2 学習指導（教科指導・総合的な学習の時間・外国語活動・特別活動）について
- 3 心の教育（道徳教育）・生徒指導・特別支援教育について
- 4 健康安全指導について（保健・体育・食育・危機管理）
- 5 英語教育・環境教育・福祉教育・情報教育・キャリア教育・図書館教育・他について
- 6 保護者・地域・大学との連携について

◎評価は、4段階評定（4…良い、3…ほぼ良い、2…やや良くない、1…良くない）

……昨年より上がったもの・同等なもの（-0.2以上）

……昨年より下がったもの（-0.3以下）

### 1 学校教育目標・学校経営・学級経営・教職員組織について

今年 昨年

①	学校教育目標・学校経営方針に基づいて、教育活動をおこなっている。	3.4	3.8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ5類移行に伴い、学校教育目標達成のために行事や委員会活動等を実践する姿が見れた。</li> <li>・わかり易く親しみやすくてよい。</li> <li>・校長先生のお話しの下、大体とれていると感じます</li> <li>・「やさしくかしこくたくましく」の学校目標にかなった児童を育てるために、委員会や野外活動など授業以外のところでも指導をしようとしている。</li> <li>・様々な教育活動により児童の成長が見られます。特に自然に囲まれた環境や大学との関わりでよりおおくの体験ができています。</li> <li>・機会あるたびに「やさしく かしこく たくましく」に関連付けて話をしたり、学校経営方針を意識しながら授業を行った。</li> <li>・教室に掲示してあることで、常に意識して指導にあたることができました。</li> <li>・体育主任として、子供の体力向上を目指し、縄跳びビンゴや短縄跳びチャンピオンの実践を行ってきました。また、学力向上・心の教育については、日々の授業で児童が向上・育成ができるよう努めてきました。今後も引き続き指導を頑張りたいです。</li> </ul>		
②	児童理解に努め、児童の自主性と教師の指導性の調和のとれた学校経営・学級経営をおこなっている。	3.3	3.5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解に努めることができている</li> <li>・毎週の情報交換は有効であると感じた。</li> <li>・すべての職員が、一人ひとりの児童に実態に即して、対応しようとしている。</li> <li>・児童数が少ないので、児童理解はよくできていると思います。しかし、関わる時間が多い分、児童の自主性を育てる部分が課題です。</li> <li>・児童の話をよく聞き、教師みんなで全児童をよくしていこうという雰囲気があります</li> <li>・待つことを心がけて、教え過ぎたり助けすぎたりしないように心掛けている。</li> <li>・大体とれていると感じます</li> <li>・自分で考え行動できるような児童に育つように、担任が中心となり、児童ひとりひとりに対し学習指導や生活指導を行っているように思う。</li> <li>・児童数が少ないため一人一人の性格や特性を理解し支援しやすい。</li> <li>・1人1人の個性や特性を理解した上で、指導に生かしている様子が全職員にあります。</li> </ul>		

- ・児童理解といっても難しい面があるが、自分自身は家庭環境やその子なりの特性など意識した上で学級経営を行うように心がけていたつもりである。
- ・在籍児童は少ないが、それぞれの家庭状況や、特性的な部分で多様性があったので、一人一人をよく観察し、異変を感じた時には声かけを行ったり、家庭に相談したりすることができた。
- ・児童の実態を考え、日々指導をしてきましたが成長に伴い児童が抱えている悩みや課題も変化してくるので、今後も引き続き児童の実態を見取りながら指導改善をしていきたいです。
- ・打合せ後の情報交換で、課題を持つ児童・生徒指導等で職員間で共通理解し指導に当たることができたと思う。個の良さ、がんばりに目を向けて、学級内での存在を高めたり、居心地の良い学級となるような教師と児童との信頼関係の構築など、今後も継続して取り組んで行くことが大切である。

③ 教職員間における相互理解や信頼関係による指導・助言・協力態勢がとられている。 **3.5** 3.5

- ・教職員間の協力ができている。
- ・職員室内できているように思う。
- ・お互いに連携、協力して日常的な課題や行事に取り組む姿が見られる。
- ・分からないことは何でも相談できる雰囲気があり、有難いです。
- ・役割を分担して取り組んでいます
- ・単級だが話をよく聞くようにしている。皆、協力的に接してくださり感謝しています。
- ・話し合いの機会を大体とれていると感じます
- ・全児童のことや学校のことを考え、教師全員が情報を共有し協力し合おうとしていると思う。
- ・情報共有により各学年のクラスの様子を理解できている
- ・自身が困ったことや、児童の気になる点など気軽に共有できるような雰囲気が形成されてます。
- ・職員室でOJT的な話がもう少しできればいいと思うが、皆さん忙しいように感じることも多く、自分もできないので改善の方向を考えていきたい。
- ・日々の悩みや気づいたことをざっくばらんに話すことができる雰囲気はあるが、これまで行ってきたことに耳を傾けてくれなかったり、自分の思いを強調して話したりする傾向が見られることがあり、協力態勢に課題を感じるがあった。
- ・困ったことがあった際に同僚の先生方や管理職の先生方が助言や協力をしてくださるので、安心して自分の仕事に向かうことができています。
- ・個々の先生方の様子から、気づいて協力する姿を見るがあった。職員室で先生方が児童の話題で話をしている様子もよくみられ、細かな連携が図られている。低・中・高それぞれで交換授業や学校行事で連携をしている。

④ 校内研究のテーマの元でICTを活用した授業を積極的に取り入れている。 **3.2** 3.6

- ・ICTを活用しようと努めている
- ・各学年ICTを活用している授業がよく見られた。
- ・各授業でICTを有効的に利用するよう努めています。
- ・児童一人一台端末や電子黒板を活用しています
- ・アナログとデジタルの使い分けがむずかしい。
- ・相川先生のお力添えを有りがたく感じます
- ・ICTは苦手だが、宿題・授業・調べ学習・発表をはじめあらゆる場面で何かしらの形でICTを活用しようと思う。
- ・意識して考えていますが、どのように使うべきか迷うことも多いです。都留市内のICT活用状況にもよりますが、ICTを効果的に活用する方法がもっと知ればと思います。
- ・自分なりに様々な取り組みを研究、実践してみたつもりである。
- ・拙い研究に1年間お付き合いいただき、本当に感謝の気持ちしかありません。ありがとうございました。
- ・児童の実態を考えたときにICTを使わず手動で行ったほうが効果的だと判断する場面が多々あり、授業の中でICTを取り入れる頻度が他の学年に比べ少ないように感じるため。
- ・個別最適な学習を可能とする複線型授業について取り組む必要性を感じている。校長先生がそのような授業を提示してくださったように、お互いに参観できるような日常的な交流が行えると良い。また、職員間でもICTの活用場面を交流し合い、児童が使えるように取り組んでいきたい。
- ・教育課程に情報リテラシーが位置づけされているが、どこまで達成されているかは担任に任されている。タブレット端末を持ち帰って学習することが全学年で行われなければならないことを前提とするなら、できることから良いので、全校児童に普段使いが求められる。

考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標に基づいた教育活動が行われている。</li> <li>・それぞれの教員が児童の様子を良く観察し、小さな変化も見逃さず児童理解に努め、丁寧な対応をして学級経営が行われている。昨年度からポイントが下がっているため課題意識を持って取り組んでいきたい。</li> <li>・言葉を交わすこと、互いがどのような仕事をどう進めているかなど周囲の状況に配慮しながら、教職員間で相互理解を図って信頼関係を深めるよう努めた。教員間のコミュニケーションを通じて、児童の様子や不明な点について明らかにしようとしていたり相互理解を図ろうとしていたりしている。様々な意見を尊重し、よりよい指導が協働でできると良い。</li> <li>・児童用タブレット端末の持ち帰り・長期休業中の課題提示や児童による回答など、全校で情報交換しながらICTの活用に努めている。校内研でも3年生の授業を全校で参観できたことも成果である。教師自身が試行錯誤しながら使っていくことが、教師・児童の活用につながる。</li> </ul>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 学習指導（教科指導・総合的な学習の時間・外国語活動・特別活動）について

今年 昨年

①	<p>児童に学習習慣が身につくよう、進んで学習に取り組めるよう、教材研究や指導法の工夫をしている。</p>	3.2	3.7
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々工夫に取り組んでいる。</li> <li>・ただ、個別最適な学びか協働的な学びかと問われれば、研究の余地がある。</li> <li>・児童が進んで学習に取り組むためには、もっと工夫をしなければならないと感じています。</li> <li>・個人差が大きいように感じます</li> <li>・一斉と個別を上手切り替えて指導するようにしている。</li> <li>・児童が興味を示すような教材を考える努力はしている。</li> <li>・様々な指導案等を確認しながら、児童の学びとなるためにはどのような授業づくりをしたら良いのか考えました。</li> <li>・自分なりに考え工夫してきたつもりだが、学習習慣の定着、進んで学習という面でさらに子どもたちに力をつけるために方策を考えなければいけないと思っている。</li> <li>・学力的に高くない児童たちなので、教材研究はできるだけきめ細やかに行い、分かりやすい授業が展開できるように努力してきた。該当学年の授業をしながら、下学年の内容につまずきが見受けられた場合には、その都度復習を行い、基礎的な部分が身に着くように心がけた。しかし、それらがどこまで定着したかは自信がない。</li> <li>・児童が興味を持つような題材を授業の中に取り入れ、児童が進んで学習に向かうよう意欲付けを行いました。頑張ったことや苦手でも取り組んだ学習は児童に見える形で評価物を掲示し、児童の意欲付けを行いました。</li> <li>・学習習慣について課題のある児童のことにについて聞くことがある。どのようにしたら身につくのか考え取り組んでいるのだと思う。児童が主体的に意欲をもって取り組めるように固定したやり方でなくとも、柔軟に指導していくと良いと思う。</li> <li>・学級掲示物「聞き方・話し方・声の大きさ」等、全学年でしっかり指導していくと良いと思う。</li> </ul>		
②	<p>児童個別の実態をふまえ、学力向上のために個に応じた指導法・評価法の工夫改善に努めている。</p>	3.3	3.6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導法を工夫できている。</li> <li>・ただ、個別最適な学びか協働的な学びかと問われれば、研究の余地がある。</li> <li>・個別の指導が必要な時には、休み時間や放課後を利用して指導をしています。</li> <li>・T2や支援の先生方と協力しながらやっています</li> <li>・個人差が大きいけど何とか対応できている。</li> <li>・努めようとしている。</li> <li>・教材研究から始め、授業をされる先生方は、クラスや個の実態に即した指導や評価をされていると感じます。</li> <li>・個別の状態に応じて課題量や内容を考えた授業を実践できるように考えを行った。</li> <li>・登校後から朝の会までの時間やさわやかタイムなどの少しの時間でも、間違いを直したり、小テストをしたりして、個別に対応するよう心がけた。</li> <li>・児童の実態に合わせて教材を作成したり、授業の進め方を考えてきました。本学校児童は目が見えにくい・手先が不器用・行動が遅いなど、勉強外の身体動作の不器用さが学習に支障をだしていることが多いため、学習の前段階として学習がしやすくなるような身体の動きを鍛えるトレーニングを授業の中に取り入れてきました。今後も児童が学習しやすい学習形態を作っていきたいです。</li> <li>・知識・技能面では、目に見える学力を3検定をはじめとして個に応じて全校で取り組んでいる。他学年に学んだことを発表したり、他学年と伝え合う学習をしたり、取り組んでいる学年もある。忙しい中ではあるが、「思考・判断・表現力」「主体的に学習の取り組む態度」を身に付ける学習・評価方法など改めて取り組む必要もあると思う。保護者が「あゆみ」にある項目が難しいと考えている人もいると思う。</li> </ul>		
③	<p>児童会活動・縦割り班活動は、学年の枠を超えた仲間作りや人間関係づくりを意図して実践している。</p>	3.1	3.5



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模学校だからこそできる縦のつながりができている。</li> <li>・事前・事後の取り組み、意欲付け、目的意識をより一層見通しをもって丁寧に行いたい。</li> <li>・高学年が低学年のことを意識して活動する姿が見れた。</li> <li>・運動会前までに、縦割り班の仲が深まるような活動がもう少しあるとよいと思います。</li> <li>・リーダー性が育まれた。</li> <li>・行事のときはできているが、普段はあまり交流がない。</li> <li>・児童の楽しそうな活動が感じられます</li> <li>・児童が少ないので、学年の垣根を越えて助け合い、協力して活動を行っている。</li> <li>・縦割り班遊びなどお互いを思いやりながら楽しんで活動している。</li> <li>・少人数学校ということもあり、縦の関係も大切になる中、様々な活動を通して児童同士のコミュニケーションを図る機会となっていると思います。</li> <li>・日常的な学年の上下関係があるなかで、あえて組織的に縦割り班活動をするこの意味などについて、特に高学年に意識をもって活動ができるようになるとさらに良いと思う。</li> <li>・代表委員会はもう少し計画的に運営してもらいたかった。ふれあいの森の管理やえさやりも児童総会での公約とは違っていて残念だった。</li> <li>・全校と遊ぶ活動があり、良いと思います。</li> <li>・縦割り意識が弱いのは、共に活動することがほとんどないから。</li> <li>・縦割り班清掃は、6年生がリードして下の学年に分担・指示をしたり、やったことを褒めてくれたり励ましてくれたり、そんな関わり合いが児童を育てるのだと思う。このようなことを目標として関わり合うことを意図した指導があると良い。</li> <li>・代表委員会・児童総会等の話し合いの進め方について、児童が言葉を交わせるよう進めて行くと良いと思う。代表委員は連絡の場になっているところがある。クラスの代表として質問・意見を言うので、事前に資料を提示し、学級での指導(児童による検討)も要する。事前に検討できない場合も、議長が指名したり、考える時間を取ったりして、発言する機会を持つように進進してはどうか。児童会執行部も、出された質問意見について、執行部としての考えを児童が相談してまとめたものを発言すると良いと思う。児童総会については、討議の柱を事前に調整して設定しておき、話し合う時間を確保すると良いと思う。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究や授業の準備を丁寧に行う姿が日々見られる。児童の学力向上・学習習慣の定着は多くの職員が常に念頭に置いて指導をしている。</li> <li>・学力の底上げ・個人差に対応するために、担任は個別の指導を授業中だけでなく、さわやかタイム(朝の学習)や休み時間・放課後等に行っている。児童一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じて、教師が必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行い、学習の目標を全ての子供が達成することを目指して、個々の児童への対応が積極的に行われている。</li> <li>・一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会を提供し、異なる目標に向けて学習を深め広げていく「学習の個性化」、個々の良い点や可能性を生かし異なる考え方を組み合わせ、多様な他者と協働し、より良い学びを生み出す「協働的な学び」に取り組む必要がある。</li> <li>・コロナ5類移行により制限なく活動できるようになった。小規模校に見られる低・高学年で遊んだり活動したりする日常的な姿も普段から見られる。組織的・計画的に縦割り活動を実施することを通して、次年度も児童の成長や育ちを支援していくことが大切になる。</li> </ul>

### 3 心の教育(道徳教育)・生徒指導・個に応じた支援について

昨年

<p>①</p>	<p>道徳教育を中心とする全教育活動を通して、思いやりの心と感謝の心を持てるよう指導をおこなっている。</p>	<p>3.2</p>	<p>3.3</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳で思いやりの指導ができている。</li> <li>・授業同様、日々の言葉がけ、指導が重要。理解しながらも行動できないところに焦点を当てた指導をお願いしたい。また、それができない人間の弱さにも目を向けさせたい。</li> <li>・あいさつのできる子、友だちにやさしくできる子が多いと感じています。</li> <li>・週に一回、しっかりと問題に向き合う時間はとても大切です</li> <li>・教材と実態やニュースなどから話題を考えて指導している。</li> <li>・小人数の良さが出ていると思います</li> <li>・道徳教育ではもちろん授業や生活を通して思いやりの心や感謝の心を育む教育を学校全体で行っているように思う。</li> <li>・生活の中でありがとうございますとよく聞くことが多い</li> <li>・先生方の授業を見させていただくと、これらのことを意図した内容となっていると思います。そして、子ども達の姿として現れていると思います。</li> <li>・日常生活のなかで、思いやりや感謝ということを意識して働きかけるようになってきた。道徳の時間でもいろいろな内容についてふれ、気持ちを育てるように心がけた。</li> <li>・道徳の授業だけでなく、ふだんの生活の中で、道徳心が育つよう、意識してしどうしてきた、、、つもりである。</li> </ul>		

・自立活動や道徳教育等で人に感謝することや思いやりについて考えさせたり、児童が生活の中で自分本位な行動をした際には「君がされたらどう思うかな。」「〇〇さんはこう思ったんじゃないかな。」等問いかけをしたりし、指導をしています。しかし、児童の様子を見ていて、思いやりや配慮に欠ける部分を感じるが多々あります。他を思いやれるような精神年齢ではない、特性で他の気持ちを理解しにくい等の個の実態もありますが、児童にそのような心情が少しでも芽生えるよう今後も引き続き指導や声掛けをしたいと思います。

・道徳で学習したこと、学校行事で体験・取り組んだこと、身近な出来事に係わったことなどを関連づけて深めることが大切であることをいろいろな先生方からお聞きし、学ぶことができた。見通しを持って計画的に取り組んでいきたいと感じた。

② 集団の一員としての規範意識を育て、良識ある行動をとれるよう全校職員の共通理解のもと、協働態勢での生活指導・生徒指導をおこなっている。 3.3

新/R3

・協働態勢での生活指導に努めることができている

・同上であるが、集団意識が同調圧力にならないような配慮・視点もお願いしたい。できない・しない理由も踏み込み、共有することも必要だと思います。

・情報交換の時間が確保できてよい

・全職員で全校児童を指導できていると思います。

・先生方で協力しながら児童に支援をしています。

・全校的に指導することは殆どなかった。担任がご苦労されているとおもいます。

・話し合いの下とれていると感じます

・児童の問題点や日々の生活の様子を共有する機会を毎週持つことにより、全職員が全生徒のことを把握し、指導していると思う。

・ケース会議や情報交換で全職員が児童に対して理解できていると思う

・小さな気付きもコミュニケーションを図り共有したり一緒に悩んだりしながら、抱え込み等無く対応できていると思います。

・生徒指導について、毎週の情報交換をすることである程度の共通理解を図れていると思う。規範意識を育てるという面では、少しずつ育っているとは思いますが、一層の働きかけが必要だと思う。

・児童理解の時間は、他学年の様子を知ることができる良い機会だった。

・集会などの話をよい姿勢で聞ける児童が増えてきていると思います。

・生徒指導・児童会活動(挨拶・校舎内での過ごし方等)それぞれ目当てを提示して取り組んでいると思う。その成果についてどうであったのか、職員の共通理解が図れているか、児童が頑張ったことが評価されているか、PDCAサイクルができていないか再考したい。

③ いじめや不登校、問題行動の早期発見と早期対応に努めている。 3.5

3.7

・早期対応ができている。

・情報共有や日々の様子を職員室内で交流しているため、スピードをもって対応できているように感じる。また、保護者への情報共有、ケアも同様にきめ細かいと感じる。

・一人一人と毎日会話をする時間があることで、児童の様子の変化には早く気づくことができている。

・アンケートや日記なども活用しながら、様子を伺っています。

・毎週おこなうことかできた。

・担当者の先生方をはじめ皆で取り組んでいると思います

・授業や日常生活の中での変化や態度を見取り、気づいたことは伝え合い、いじめや不登校の芽を摘むように全職員が心がけている。また、不登校児への対応もかわりのある教師が中心となり、連携を取り臨機応変に手厚く行っているように感じる。

・状況に応じて対応している

・先生方がクラス内の様子や、個々の日常の健康観察等を実施してくださっていることが大きいです。また、情報交換会を通して全員で子ども達を見ていこうとする雰囲気が良いと思います。

・いじめ調査による対応、児童や保護者の話からの対応等、かなり早期対応ができているように思う。

・6年の児童について、年度の途中までは不透明な部分があった。

・今年度は放課後の打合せの際に情報交換の時間があり、他の学年の児童の様子もわかりやすい体制になっているとおもいます。

・児童の様子に変化が見られたらすぐに対応し、保護者とも連携して児童間の意識の違いや感情の隔たりや溝を埋める作業を丁寧に行っていた。

・不登校について、情報交換により共通理解を図り、全教師がどのように対応していくのか確認していく手続は踏んでいきたい。

④ 支援を必要とする児童の情報交換・共通理解・外部機関との連携のもと、適切な支援をおこなっている。 3.4

新/R3

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まめに情報交換ができています。</li> <li>・さらに良い支援があると思うが、現状で考えられてできていることをしていると思う。小さい職場ながら情報共有・共通理解の難しさを感じた。「言ったつもり」「わかっているつもり」という日本的な意識は通用せず、細かいことでも一つ一つ確認することの大切さを学んだ。</li> <li>・支援を必要としている児童に、多くの職員が関わり、より良い方向に支援しようとしている。</li> <li>・情報交換があるおかげで、全職員で全児童をみることができていると思います。</li> <li>・引き継ぎをしっかりとっておかなきゃいけないと思います</li> <li>・できていた。</li> <li>・話し合いの機会が毎週持たれ、とれていると感じます</li> <li>・情報交換の時間を毎週持ち、各機関との連携のもと適切で手厚い支援を行っていると思う。</li> <li>・情報交換を頻繁に行うことでどの様な支援が必要か分かる</li> <li>・スクールカウンセラーなどの連携も図り、保護者・児童への対応を意識して行っていると考えます。</li> <li>・職員間の共通理解についてはある程度図られていると思う。児童に「みんなちがってみんないい」ではないが、それぞれの個性や特性を認めるような気持ちを育てていくような支援を一層していきたい。</li> <li>・児童理解の時間が有効であった。</li> <li>・今年度は放課後の打合せの際に情報交換の時間があり、他の学年の児童の様子もわかりやすい体制になっているとおもいます。また、支援を必要とする児童にいろいろな先生方がかわり、連携を行っていると思います。</li> <li>・少人数ではあるが、学級の中で関わり合った中で個々の良さを見つけ認め合い励ましあう機会を持つことが必要な場面もあった。</li> <li>・キトス先生や岩村先生が児童に寄り添い支援していただいているおかげで、居場所を感じ楽しく学校に来れている児童もいる。児童と児童、児童と担任をつないでくださり、大変ありがたく思う。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">考 察</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別の教科道徳が確実に行われ、思いやり・やさしさを始めとして、児童の心が育ってきている。また、教科としての道徳と、日常生活や行事との関連を図り、担任の声掛けや事前事後の指導やふり返りを通して、心情・判断力・実践意欲・態度の育成に取り組むことができている。</li> <li>・生徒指導について、情報交換を行い、全教職員が児童に関わり、協働で指導ができている。生徒指導における規範意識の育成については、児童会の生活目標とも関連させた上で、評価して次への課題を明らかにして取り組む必要がある。</li> <li>・同調圧力にならないように、個々の多様性を認め合うことを意識して指導していく必要がある。</li> <li>・児童の細かな変化を見逃さず、情報を共有し全教職員で関わっていく意識を持ち、早期対応できるよう連携を取り対応している。</li> <li>・各学年に在籍する児童について細かな情報共有がなされ、必要な支援が施されている。少人数の学校の良さとして、児童一人一人を全員の目で見ることができている。</li> </ul>

#### 4 健康安全指導について（保健・体育・食育・危機管理）

昨年

①	<p>児童の健康状況の把握に努め、保護者への啓発や保護者との連携を図り、健康安全教育を推進する指導を行っている。</p>	3.6	3.8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康についての保護者との連携ができています。</li> <li>・養教、担任を中心に啓発・連携が図られていると思う。「保健の日」で養教が教室で子どもたちに指導することの大切さを学びました。次年度も継続してほしい。</li> <li>・養護教諭を中心に、保護者への啓発が行われていると思います。</li> <li>・給食の時間を教師がしっかりと活用します</li> <li>・保健室と連携して迅速かつ丁寧にできた。</li> <li>・大体出来ていると思います</li> <li>・毎日の健康チェックやお便り、保護者へのれんらくなど、健康安全教育を推し進めていると思う。</li> <li>・養教の先生との連携できている</li> <li>・全職員が保護者とも適宜コミュニケーションを図りながら、保護者を巻き込んだ健康安全教育の実施ができていると思います。</li> <li>・保護者に子どもたちの健康状態について連絡し、改善ができるように働きかけてきた。</li> <li>・養護教諭が児童の様子をよく観察して報告してくれて助かったが、担任が把握していないことを全体の場や保護者へ伝えることは控えてもらいたかった。</li> <li>・小さい学校ということもあり児童に目が行き届きやすく、児童が学校で具合が悪くなったり何か病気にかかった際に、保護者の方と連携をとり些細な様子の変化でも迅速に対応ができていると思います。</li> <li>・養護教諭が全校児童に目を配って、事前指導・事後指導をよくやっていた。</li> </ul>		



	・杉本先生が保護者に進んで係わり、学校での気になる様子や頑張っている様子などを積極的に伝え、保護者と信頼関係を深めながら取り組んでいると思う。	
②	運動を通じて体力を養うとともに、食育の推進を通して望ましい食習慣を身に付けるなど、健康的な生活習慣の形成に努めている。	3.3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外でたくさん遊ぶよう促している。</li> <li>・体育主任・養教を中心に努めていた。</li> <li>・食缶を完食できる日は少ないですが、自分の前にある分は食べきれようになってきました。</li> <li>・給食の献立や関係のある行事の話をするようにしました</li> <li>・栄養教諭に担ってほしいか複数校兼務で月1来校もままならずであった。</li> <li>・定期的に保健指導もあり大体出来ていると思います</li> <li>・外で体を動かしやすい環境を作ったり、栄養士や養護教諭の食育指導や担当が食育をするなど、健康的な生活習慣を身に付けられるよう工夫していると思う。</li> <li>・縄跳びチャンピオンやすこやかタイムで外に行く機会が増る。栄養士の訪問指導なども食育活動になっている</li> <li>・健康的な生活習慣の形成維持がなかなか意識的に図れないこともあり、より良く生活できるために、もう少し意図した活動をしていきたいと思います。</li> <li>・食育については給食試食会を通して家庭にも働きかけるとともに、子どもたちにも給食や学活などの機会を通して話してきた。給食の食べ方、好き嫌いなど少しずつではあるが改善しているように感じている。</li> <li>・高学年は忙しく、休み時間もなかなか外で遊んで体力向上に努めることができなかつたが、体を動かすことが好きな児童は多い。食育に関しては、朝食を摂ってこない児童が複数見受けられが、家庭の状況もあるので学校としては呼びかけ程度しかできなかった。</li> <li>・給食センターの方の食育指導の実践や歯磨き指導など、児童の健康を育成する取り組みはされてきていると思います。</li> <li>・昨年に比べ、栄養教諭中野先生の子どもへの思いを感じる。</li> <li>・体育の時間以外に、他学年児童とも交流して外遊びを進んで行う児童が割合多い。逆にそうでない児童もいる。加藤先生が、用具・場などを設置してくださったお陰で、子ども達が自主的に体を動かすことができおり、習慣化につながっている。</li> </ul>	
③	防災・防犯について安全教育を推進し、避難訓練・防犯訓練・交通安全等、危機管理の対応に努めている。	3.5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理に努めることができている。</li> <li>・教頭先生を中心に計画・運営・見直しを常に行っていた。次年度は子供たちに防災・防犯の意識をさらに高め、予告なしの避難訓練を活発に行ってほしい。</li> <li>・予告なしの避難訓練は、子どもたちが自分たちで考え行動する機会になっていると思います。</li> <li>・垂直避難や起震車などの実際の附属小にあった内容でした</li> <li>・予告なしで即応力をつけないと石川の9割圧死などにはたいおうできない。起震車体験はよかった。</li> <li>・起震車の体験もあり大体出来ていると思います</li> <li>・年に数回場面設定を変えた避難訓練を行ったり、起震車体験を行うなど、防災についての訓練やそれに伴う教育も行っている。また、防犯訓練や交通安全等については売部の講師の講演や体験などを通して行い、危機管理に備えていると思う。</li> <li>・避難訓練や防犯・交通安全などの行事により、児童が自分で危機管理できる機会がある</li> <li>・臨時の避難訓練や、起震車体験など、より現実的に被災時の訓練ができていて良かったと思います。</li> <li>・防犯訓練については、今まで継続で行ってきた経過があるが、今年度の様子を見ると依頼先や内容など見直しが必要だと考えられる。</li> <li>・適切に行われていた。</li> <li>・今年度は昨年度はしていない起震車の体験もあり、防災に関する意識付けは昨年度よりもされていると思います。</li> <li>・起震車体験が良かった。</li> <li>・地震や大雨など、想定外の規模の災害がいつ降りかかるか分からない。児童の命を児童自身が守れるように、地域や所在地の実態に合った訓練を具体的に想定した訓練を積み重ね、対応できる力を育てていきたい。</li> </ul>	

新/R3

3.5



考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の健康の把握、家庭との連携等、養護教諭の情報共有はよくなされていた。管理職への報告も確実に行われ、学校として児童の健康に配慮できた。</li> <li>・児童の実態に基づき、持久力や瞬発力、投の力を育成するための方法が実施されている。また、運動環境の改善により、自発的な運動が行われている。</li> <li>・養護教諭、担任のきめ細かな食育指導により、望ましい食習慣を身に付けつつある。</li> <li>・児童の実態や地域の実情にあった避難訓練や交通安全教室、防犯訓練を実施できた。いつ、何が起こるか予測不能な現在、児童が自分の命を自分で守れる知識や判断力・行動力を身に付けられるよう、限られた計画の中で訓練経験を積み重ねていきたい。日航機事故・能登半島地震のニュース・報道から、日頃の訓練がいかに重要であるか、児童も教師もよく理解できたと思う。</li> </ul>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 英語教育・環境教育・福祉教育・情報教育・キャリア教育・図書館教育・他について

今年 昨年

①	英語特区の学校であることを意識して、日常から児童の英語による基礎的なコミュニケーションの能力の育成に努めている。	3.6	3.3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のコミュニケーションに努めることができている。</li> <li>・専科の先生が常駐していただいたおかげで、子どもたちの意識が高まった。まだまだ上を目指せると思う。</li> <li>・日常的な英会話の機会を意識した活動ができている。</li> <li>・英語での放送や挨拶運動など、子どもたちが英語に慣れ親しんでいると思います。</li> <li>・放送が英語になって、より英語に触れるようになった</li> <li>・途中から英検対策の時間になってしまった。もったいないと思いました。</li> <li>・各委員会の放送にも英語を取り入れるなど良いと思います</li> <li>・英語であいさつをしたり、朝昼夕の放送や職員室への入室時には英語を使うなど英語を使う機会を増やすようにしている。また、ALTが常時いることによりALTとの遊びの時間や交流する時間を毎日持つことができるので、様々な英語表現に触れられると同時に英語で話してみたいという気持ちが生まれることを期待したい。</li> <li>・生活の中で英語使う機会がたくさんある</li> <li>・日常的に英語を使いながら英語を身近に感じ、言葉の壁に身構えない姿を作るためにも、英語での会話や、挨拶、職員室入室時や放送時の言葉掛けなど意識されてると思います。</li> <li>・子どもたちが英語の授業を楽しみにしている様子を見ると、英検Jrの結果云々ではなく、特区としていい影響を与えられていると思う。</li> <li>・オールイングリッシュ化に最初は抵抗があったが、毎日繰り返し行う中で、定着しつつある。</li> <li>・職員室に入る際に英語で言う、放送係・保険係の英語での放送、階段に掲示された英語カード等、児童が日常的に英語に親しめる環境づくりができていると思います。また、英語専科の相川先生が日々英語を楽しく教えてくださいましたので英語が好きな児童も増えていると思います。</li> <li>・相川先生がロシェル先生に指示して、児童が興味を持って楽しく英語を学べるように工夫した授業を展開してくださっている。学校の日常生活の中にも、できるところから英語を取り入れている。</li> </ul>		
②	環境教育や自然体験活動・学校林活動の活動等を通して、環境への関心を高め、理解を深めさせるなど、環境教育の充実を図ることができた。	3.4	3.7
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育に努めることができている。</li> <li>・各機関と連携しながら活発に取り組んでいると思う。</li> <li>・学校林活動では、外部の先生に教えていただき、学習を深めることができたとと思います。蜂の巣がなければ、縦割り班でのえさやりも定期的に行えてよいと思います。</li> <li>・6年生は学校林に植樹をしたり、椎茸を栽培したり、薪ストーブがあったりして、学校林を活用している学校です。</li> <li>・学校林は遠く、危険。畑も担任が管理はできない。計画的に縮小したり畑や学校林じまいをする計画を立てていきたく</li> <li>・学校林の体験や大学との連携など関心をもてていると思います</li> <li>・外部講師や大学の先生との学校林での活動や自然体験活動を1年時から6年間繰り返すことにより、児童は環境や自然への関心や興味を抱き、それらについて考え取り組むような機会が数多くあると思う。</li> <li>・文大の先生や外部講師・森林組合により低学年から自然について学ぶ機会がたくさんある</li> <li>・豊かな自然に恵まれている強みでもあると思います。都市部では感じられない貴重な体験だと思います。</li> <li>・外部講師の先生の話など通して、他の学校とは一味違った環境教育が図られていると思う。</li> <li>・学校林での活動が大変貴重な経験となっている。</li> <li>・外部講師による自然体験活動や学校林等の活動を通し、他の学校の子供よりも自然に関わる機会は多いように思えます。蜂や蛇がいる等で残念でしたが、動物の餌やり活動もできればさらによかったと思います。</li> <li>・マンネリ化。学年の成果の積み重ねが必要。再編成を要する。</li> </ul>		

	<p>・これらの体験や活動を単体の物と捉えず、身近なことからや教科・総合などの学習とも関連づけて学習を深めていくことが見えない学力を付けていくことにつながると思う。教育課程に位置づけている学習(総合)を計画的に実施ことが大切だと思った。</p> <p>・小規模校で職員数が少なく忙しい現場で、教育課程の反省や見直しをどこでどのように行い、どう編成するのか、考える機会は必要な気がします。</p> <p>・特に、総合的な学習の時間は、教科横断的な学習を行い、その学校の教育の特徴となるので、本校の狙いをふまえたうえで、各学年の達成の様子を知る場があるといいと思います。</p>		
③	福祉や人権への関心と理解を深め、共に生きる心を育むとともに、多様性を尊重する態度を養うように努めている。	3.4	3.4
	<p>・人権教育に努めることができている。</p> <p>・普段の授業や活動での視点の当て方、共有の仕方が態度に結びついてくると思う。大人が多様性を意識した視点を持ち、常に子どもたちに返していくとよいと思う。</p> <p>・福祉講和や道徳の授業を通して、関心を高められたと思います。</p> <p>・多種多様な児童に合った支援をしていこうと思います。</p> <p>・1月の学習会のように、必要なことは専門家から学び</p> <p>・認識をアップデートしていかななくてはいけない。</p> <p>・多様性などの問題にはまだまだと感じます</p> <p>・毎年福祉講和で障害を持った人の話を聞いたり疑似体験をする機会があるが、いろいろな人たちがいることを学ぶよい機会であると思う。、その人たちの生活や苦悩、頑張りを知ることにより、いろいろな人と共存していくことの大事さや態度を学ぶことができると思う。</p> <p>・車椅子アスリート講師の方のお話など、毎年様々な障害を抱えながら生きる姿を伝えてくださる方が来てくださり、子ども達の道徳心や生きる力に大きく影響していると思います。</p> <p>・今年度の福祉講話はいろいろ障害について考える機会になったのととも、一生懸命生きるという学習になったように思う。</p> <p>・チューリップやシクラメン、パンジーを育てる活動は情操教育にも良い。</p> <p>・福祉講話を行い、障害のある方がどのように生活しているのかを知り自分と違う人について知る機会がもてたと思います。</p> <p>・毎日の教室内・学校内が多様性を認める機会になると思う。見た目や偏見・先入観から離れ、子どもたちに相手の存在や良さに目を向けさせていくこと、人間理解につなげていくことは大切なことだと思う。</p>		
④	情報教育は、児童の実態をふまえて計画的におこない、情報リテラシー育成に努めている。	3.1	3.4
	<p>・情報教育の推進に努めることができている。</p> <p>・現状ではよく頑張っていると思います。他校や先進校の情報を積極的に取り入れていきたいと思っています。</p> <p>・GIGAワークブックやまなしを計画的に活用していきたいです。</p> <p>・いままで積み重ねが大切だと思っています。6年生ともなると、入力も早く、やりたい作業が時間いっぱいできるので、過去の積み重ねに感謝します。</p> <p>・デジタルとアナログとの使い分けかむずかしい。</p> <p>・育ってきていると思います</p> <p>・外部講師による講演で親子で学ぶ機会を作ったり、チラシによる啓発など、計画的に行っていると思う。</p> <p>・先生方がその都度情報リテラシーについて話されているのを見たり、SNS講話会の開催など、育成に努められていると思います。</p> <p>・計画的にという点で今後学年ごと流れを作って実施していく必要性を感じている。</p> <p>・タブレットの持ち帰りも定着してきて、子どもたちにとって、当たり前の文房具になってきている。職員も昨年度より活用している場面が増えた気がする。</p> <p>・ネットの使い方講座等、保護者や児童に向けて、情報リテラシーについて知る機会は今もうけていると思います。</p> <p>・学年や学校でやるべきことの統一性を持った方が良い。</p> <p>・系統性を踏まえた計画をもとに、学年に応じた指導をしていった方が良い。端末の持ち帰りも含め、低学年から日常使いを心掛けて行きたい。</p>		
⑤	より良い人間関係を築きながら、自らの良さや自分らしさに気づき、生活の中でそれらを生かそうとする意欲や態度の育成に努めている。(キャリア教育)	3.5	3.3
	<p>・キャリア教育で意欲向上に努めることができている。</p> <p>・高学年は外部から講師を招き学習した。それだけでなく、日々の授業や声掛けが重要であると思います。また、保護者を招いての学習もよいと思います。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任以外にも児童の頑張りに気づき、声をかけてくださっているのが小規模校ならではのよいと思います。自分カードで毎月ごとに自分のできるようになったことを言語化しているため、自分のよさに気づく機会になっています。</li> <li>・キャリアパスポートや将来の自分を考えさせました</li> <li>・自分カードを使いやすくしてほしい。</li> <li>・まだまだ自身の評価を低く見ていると思います</li> <li>・都留出身の女優やYouTuberから話を聞くことは、身近に感じる人たちからキャリア教育を受ける機会になってよいと思う。</li> <li>・外部講師による、キャリア教育はいろいろな人の考え方や生活・仕事について学べる機会になっている</li> <li>・去年は小説家、今年はYouTuberなど、様々な講師の方からの話は刺激になり、自身の夢にも何かしらが影響されるため、良いと思います。</li> <li>・人間関係ということについて折に触れて指導するとともに、将来を見据えた生活をしていくように働きかけてきた。</li> <li>・校長先生が提案してくださった「できるようになったこと」を意識的に活用するようにしている。また、外部講師のMomo kaさんの授業は子どもたちにとって将来を考える大変貴重な機会となった。</li> <li>・節目ごとに自分のことを反省する機会を持つことで自分がしてきた行動に気づき、それが児童の自身につながっていると思います。</li> <li>・キャリアパスポートを活用し、どの場面でどんな目当てを設定し、結果としてどうだったのか、を振り返る活動を行い、他己評価も含めて自身の良さに気づけるよう取り組んでいきたい。</li> </ul>	
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

⑥	図書館教育や読書指導を授業との関わりの中で計画的におこなっている。	3.0
---	-----------------------------------	-----

3.5

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の活用を推進することができている。</li> <li>・外部からの読み聞かせができたことは一つの成果であると思います。ペア読書も継続的にできるとよい。とにかく「読書」に積極的にかわらせた。</li> <li>・高学年になるほど、時間をとるのは難しいかもしれませんが、毎週1時間または0.5時間を図書の時間とし、図書室を利用できると読書に親しむ機会が増えると思います。</li> <li>・授業となかなか関連付けることができませんでした。</li> <li>・さわやかタイムに毎日借りることを継続して、読書習慣が身についた。</li> <li>・授業の中で本を活用する機会が減っていると感じます</li> <li>・教師の読み聞かせや外部のボランティアによる読み聞かせ、児童同士による読み聞かせなどの時間を設けることにより、読書への意識付けをする機会が様々な形であると思う。</li> <li>・ゆっくり読書をする時間が取れない様子</li> <li>・本が好きという児童が多く、図書活動も工夫されており良いと思います。</li> <li>・週に1回程度図書室を使うように設定するとともに、授業との関係で読書指導もしてきたが一層の充実をしていく必要を感じる。</li> <li>・子どもたちがどうしたらもっと本を読むようになるのか、この1年悩み続けてきた。子どもたちの放課後や家で過ごす時間の中に「読書」の時間を定着させていくにはどうしたらよいのだろうか。習い事や家庭環境により落ち着いて本を読む時間や場所の確保が難しい気がしている。</li> <li>・調べもの学習等で図書室の本を活用させていただいています。</li> <li>・貸出冊数が少なくなっている。低学年がさわやかタイムで図書の本を借りている。全校でその時間を運用できると良い。本を楽しんで読む・本の楽しさを感じ、読書が身近に感じられるように、学級の取り組み以外に、図書館自主主体の取り組みも積極的に行う必要があると感じる。</li> </ul>	
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語専科教員の工夫された授業により楽しみながら学習を深めることができている。また、英検Jr.の取組を視野に入れながら児童の英語力の育成に年間を通して取り組むことができている。英語専科教員・ALTが常駐していること、放送や入室時の英語利用など、日常的に英会話の機会が提供されている。</li> <li>・環境教育・学校林活動・自然体験活動は、附属小の教育課程に位置づけられた特徴となる部分である。森林プログラムの系統性を意識して学びの深まりが感じられるよう取り組んでいきたい。</li> <li>・福祉講話も含めて、教室内での学級経営が多様性を認め合う学びの場になる。日々の児童との関わりの中で課題が見られたときに職員間で情報共有して学び合い、新鮮な気持ちで児童に接していけるようにしたい。</li> <li>・遠足や外部講師、ミニミニ大学等を通じて、将来の自分について考える機会が持っている。また、キャリアパスポートの効果的な活用もできている。</li> <li>・読書指導について、貸出冊数を伸ばしていくことだけでなく、本が好き、読書が好きな児童を育てていくことが大切。読み聞かせとして、外部講師・ペア読書・読み聞かせ週間以外に、学級・図書室において、読書の取組を考えていく必要がある。</li> </ul>	
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--



①	保育園や中学校と連携を深めながら教育活動をおこなっている。	3.2	2.9
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園や中学校と情報交換ができるとよい。</li> <li>・保育園とは連携がすっ住んでいると思います。中学とは12月の授業だけではなく、もっと何かができると思います。</li> <li>・6年生の研究授業は、小中連携でよかったです。</li> <li>・さまざまな学校行事を通して、関わりを持たせました。</li> <li>・保護者は協力的です。</li> <li>・大体出来ていると思います</li> <li>・中学校の先生方の6年生の英語の授業への参観や開一保育園での6年生による英語の本の読み聞かせ、開一フェスティバルでの学校紹介ブースの設定など保育園や中学校との連携を積極的におこなっていると思う。</li> <li>・保育園の訪問で子供たちが嬉しそうだった。良い経験になった。以前は、陸上記録会の前に陸上部の先輩たちが教えにきてくださった。</li> <li>・6年生の保育園児への読み聞かせや、中学校の先生と作り上げた英語の授業(校内研究)、入学説明会でも1年生との触れ合いなど、連携を深めた活動となっていると思います。</li> <li>・遠足などでの保育園との連携、英語授業での中学校との連携があったが、なお一層の取り組みができるとよいと思う。</li> <li>・今年度は校内研の6年生の研究授業で中学校の先生方に外部講師として4名も来ていただいたり、お琴を快く貸していただいたりしてありがたかった。</li> <li>・児童入学に向け、必要な情報を共有できるよう教務の先生と協力し、保育園や中学校との連携の段取りは毎年とれていると思います。</li> <li>・特に感じられない。</li> <li>・外部の人と係わる機会は児童にとって大変貴重である。校内で学年間で交流したり、校外で島田小と連携したことも、児童にとって学習を深める機会になったと思う。できる範囲で推進していきたい。</li> </ul>		
②	都留文科大学との連携・協力を積極的におこなっている。	3.6	3.8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えられうることはできていると思います。</li> <li>・今くらいの連携・協力がちょうどよいと思います。</li> <li>・さまざまな学校行事に関わって協力してもらいました。</li> <li>・専門的なことを教えてもらえる機会は貴重だとおもう。</li> <li>・色々な機会に大学との連携が出来ていると感じます</li> <li>・ミニミニ大学での大学見学や授業体験、大学の先生による出張授業など附属ならではの活動がたくさんあり、児童にとっては有意義な活動だと思う。来年は4年目になるので、違って角度で大学のさらなる良いところ紹介してほしいと思う。英語特区ということもあり、校内研では英語の授業に対するアドバイスを受けることもできる。</li> <li>・ミニミニ大学や文大の先生の授業を楽しみにしている児童が多い</li> <li>・ミニミニ大学で、大学の様子を知ったり、SATの先生方との連携を通して、学校間の成長や、児童の成長も図れていると思います。</li> <li>・外部行為死闘で様々な支援をしていただいていることに感謝しています。</li> <li>・毎年恒例となっている連携(ミニミニ大学や野外活動)が多く、子どもたちも楽しみにしている。</li> <li>・校内研や創作力比べの取り組み、ミニミニ大学等、昨年度に比べ大学の講師の方から講義を聴く機会が増えたと思います。</li> <li>・より上をめざした取り組みが感じられない。</li> <li>・ミニミニ大学や、各種外部講師の活用、校内研への講師招聘など、連携できている。さらに活用し、附属小の特徴としたい。</li> </ul>		
③	開かれた学校づくりのため授業参観・懇談会を実施したり、「学校だより」、「学年だより」の発行、及びホームページ更新等を通して、学校の教育活動について保護者や地域等に情報提供をおこなっている。	3.6	3.8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより等の情報提供ができている。</li> <li>・HPはよく更新したが、見てもらうようにもっと宣伝すればよかったと思いました。</li> <li>・学校便り、ホームページ掲載お疲れ様です</li> <li>・お便りやHPでは、写真も多いので、保護者は子どもの様子が分かってよいと思います。</li> <li>・学年便りが全然出せませんでした。</li> <li>・他に方法がないのでお便りで伝えています。</li> <li>・とれていると感じます</li> <li>・学校だよりや学年だより頻繁に出され、保護者は児童や学校の様子を詳しく知ることができていると思う。</li> </ul>		



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動や行事後など適宜ホームページや通信を作成していただき、ありがとうございます。</li> <li>・自分が見ている範囲では学校だよりホームページの更新はよくされていると思う。保護者がどのくらい、それを見ているかという点については温度差があるように感じている。</li> <li>・必要に応じて発信していただき、保護者も感謝していることが伝わってくる。</li> <li>・「学校だより」や「学年だより」、メール等での連絡も含め、保護者の方には必要な内容が知れるような情報提供の形態になっていると思います。</li> <li>・学校での取り組みや様子について情報公開を積極的に行っていると思う。</li> </ul>	
④	学校と地域・保護者との連絡や情報交換は適切におこなっている。	3.6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換が適切にできている。</li> <li>・すべての教職員が意識してよかったと思います。</li> <li>・何かあった時には、すぐ保護者に連絡を入れ、連携を図っています。</li> <li>・自分では適切に行えたと思います</li> <li>・その日のうちに連絡帳電話お迎えに来たときなどに伝えている。</li> <li>・行われていると思います</li> <li>・お便りや教師からの電話、訪問、送迎の時の会話などにより、地域や保護者との連絡や情報交換は適切に行われていると思う。</li> <li>・感染状況も以前より落ち着き、対話の機会が増えることができ、適宜行われていると思います。</li> <li>・様々な機会を通して情報交換が行われていると感じている。</li> <li>・コロナも5類に移行したことで、保護者が学校へ来る機会も増え、連絡や情報交換が昨年度に比べて格段に増えた。</li> <li>・連絡しなければいけないことはこまめに連絡するよう心がけています。</li> <li>・懇談会・学校評議員・児童送迎の際など、機会あるごとに直接お話できていると思う。</li> </ul>	3.5
考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学・卒業時の児童情報交換だけでなく、開地保育園とは6年遠足・入学説明会での交流会、中学校とは英語研究授業で英語教師が参観交流して連携を深めた。また、都留文科大学との連携は、ミニミニ大学・授業での外部講師・校内研講師など、多くの場面で行われ有効に機能していると考えられる。</li> <li>・学校ホームページ・学校だより・学級だより・安心メールでの配信など、学校の教育活動の紹介を地域・保護者に対して行っている。</li> <li>・地域においては、学校評議員会・学校行事への参加協力等、普段から学校の教育活動について意見交換する機会は持っている。また、家庭訪問・授業参観・懇談会だけでなく必要な連絡を随時おこない、学習・保健・生徒指導上の対応に活用している。</li> </ul>	

# 都留文科大学附属小学校 保護者アンケート

都留文科大学附属小学校

R6.1.15~1.22 実施

各項目の当てはまると思われる選択肢1つを選んでください。また、ご意見を入力してください。  
ない場合は「なし」と入力してください。

A…大いにそう思う B…まあまあ思う C…あまり思わない D…全く思わない (%)

※ A=4, B=3, C=2, D=1 として、平均値を求めた。下段( )内は、昨年度平均値

みどり …… Aの割合が5%以上増えたもの

ピンク …… Aの割合が5%以上減ったもの

きいろ …… C評価・D評価がついたもの

学校について		A	B	C	D	平均
1	学校は、やさしい子どもを育てようとしている。(思いやり 挨拶)	74 (82)	26 (18)	0 (0)	0 (0)	3.7 (3.8)
2	学校は、かしこい子どもを育てようとしている。(意欲的に学習に取り組める)	74 (79)	26 (18)	0 (3)	0 (0)	3.7 (3.8)
3	学校は、たくましい子どもを育てようとしている。(進んで運動 最後まで頑張れる 健康や安全に気をつける)	60 (68)	40 (32)	0 (0)	0 (0)	3.6 (3.7)
4	運動会や校外学習等の学校行事は、子どもたちにとって魅力あるものになっている。	69 (74)	31 (21)	0 (6)	0 (0)	3.7 (3.7)
5	学校は、保護者や地域の方々が授業や行事を参観できる機会を適切に設けている。	66 (59)	34 (32)	0 (9)	0 (0)	3.7 (3.5)
6	学校は、子どもの安全に配慮し、適切な指導と危機管理を行っている。	71 (65)	29 (35)	0 (0)	0 (0)	3.7 (3.6)
7	学校は、子どものことで連絡・相談しやすい。	80 (59)	20 (38)	0 (3)	0 (0)	3.7 (3.6)
8	学校は、家庭への連絡や情報提供を適切に行っている。	63 (74)	34 (26)	3 (0)	0 (0)	3.5 (3.7)
9	通知票は、子どもの学習の様子がわかるものになっている。	60 (61)	37 (36)	0 (3)	3 (0)	3.6 (3.6)

## <学校について：ご意見>

○肯定的なご意見

△要望等

○とても先生たちが親身になって頂けるので、安心です。

○1人1人に寄り添い、子供の意見を尊重してくれてると思います。

○いつもありがとうございます。

○コロナがあけたので、保幼小連携などで地元の小学校に進学したいなと思ってもらえる機会を作り入学者が増えてくれるといいなと思います。魅力的な学校なので知ってもらいたいです。

△保護者だけではなく、祖父母にも授業や行事にも参加してほしいなあと思いました。他校との運動会の日程が同じなので参加できなかったの。

○少人数教育なので落ち着いた環境の中で子どもが過ごせていると思います。他学年との関わりも多く、大学との交流もあり、他の学校ではできないたくさんの経験を積んでいると思います。魅力的に感じるばかりです。

○いつも大変お世話になっております、今以上に望むことは有りません。

○子供達の意見や考え方に耳を傾けて、話を聞いてくれると思っています。

○生徒が少ない事も有るが、先生方との係わりあいが多いです。相談もしやすいし、親身になって頂いてます。

○いつもありがとうございます。

○運動会やお知らせで子どもに対して魅力のある内容の教育をしていると思う。

○家庭と学校での情報共有がしやすく、親身に相談にのっていただいております。

- 卒業まで附属小に通いたかったです。
- 統合は正直寂しいです。
- 統合にならず附属小が残って欲しい限りです。
- △あんしんメールのアプリよりお知らせがない。こちらから見にいかないと気づかない。開封確認があるが、1週間以上未開封で経過していても、学校より連絡が来たことがない。アプリのみだと、スマホの故障などがあった場合、別の媒体より情報を得られると、いいと思う。
- いつも丁寧に対応していただき、感謝しております。
- 小さな事でも、親身になって相談出来る先生がいる事が、すごく助かります。また、行事等も生徒数が少なくても工夫されていて、頑張っている子供達はもちろん、先生方にも感謝しています。
- 学校全体の雰囲気がとても素敵で、とてもいい学校だと思います。
- 学校の様子がよくわかり、安心して通わせることができる素敵な学校だと思います。

**【考察】**

- ・5・6・7については、昨年度より高い評価となっている。連絡相談のしやすさから、担任や学校との信頼関係が築けていると考えられる。
- ・学校教育目標「やさしく かしく たくましく」について下がっている。学校教育目標について常に関連させて指導しているが、児童とふり返り評価していく必要がある。また、Aの評価が増えるように今後も一層の努力が必要である。「たくましく（進んで運動 最後まで頑張れる 健康や安全に気をつける）」について特に低い。また、児童の心身のたくましさ・粘り強さの育成を学校に期待している。
- ・家庭への連絡・情報提供については、今後も、学校だより・学年だより・ホームページ更新・安心メール等、様々な方法で確実な伝達に努めたい。ホームページは随時更新しているので、多くの皆さんに閲覧してもらえると嬉しい。保護者の皆様にもメールチェックへのご理解とご協力をお願いしたい。
- ・地域への学校開放日を今年度から設定している。祖父母の方にも学校に来ていただけるよう呼び掛けていきたい。
- ・「あゆみ（通知表）」について、昨年度と同じ割合の低い評価となっている。観点別評価により、何がどのような状況であるのか分かり安さを求めている。個別懇談において、成果や課題について、担任から丁寧に説明していくことで理解を得る必要がある。

教師について		A	B	C	D	平均
1	先生は、おたよりや部会などで、子どもの生活状況や学級の様子、子どもの成長（学習面など）についてわかりやすく伝えている。	77 (85)	23 (15)	0 (0)	0 (0)	3.7 (3.9)
2	先生は、わかりやすい授業に努めている。	71 (79)	29 (18)	0 (3)	0 (0)	3.7 (3.8)
3	先生は、子どもたち一人ひとりのことを理解しようと努めている。	77 (88)	17 (6)	6 (0)	0 (6)	3.7 (3.8)
4	先生は、子どものことについて相談に応じてくれている。	83 (85)	11 (9)	6 (6)	0 (0)	3.8 (3.8)
5	先生は、いじめがないように努めている。	80 (88)	20 (6)	0 (6)	0 (0)	3.8 (3.8)

**<教師について：ご意見>**

○肯定的なご意見

△要望等

- とても親身に対応していただき、感謝しております。
- 先生方には良くして頂いています。名札も付けていないのに、先生から名前でお話ししてもらえるのは、子供達も嬉しいと思います。
- 一人一人ときちんと向かい合って下さる姿と小さなことでもお知らせしてくれ、子ども自身が優しい先生といつも話してくれています。
- いつも見守ってくださっている様子が子どもの話からうかがえます。先生をととても信頼しているようです。
- とても良い先生だと思います。1年で佐藤先生で安心して任せられています。
- 子どもが学校の先生になりたいと最近言うようになりました。このことが最高の先生への評価だなと思っています。
- バランス感覚があり素晴らしい。

- 寄り添ってくれる優しい先生がたくさんいます。
- 少人数なので、一人一人に行き届いた指導だと感じます
- いつもありがとうございます。2
- 授業参観や、普段から担任の先生や同級生の親と会話ができるフェイストゥーフェイスな関わりがある為悩みや気になることは相談しやすい環境にあります。
- とても柔軟に対応していただいております。
- 子どもたちと親しみが有り、とても一生懸命な姿が伝わってきます。・とても安心感があります。2
- 子ども達、1人1人に丁寧寄り添い、指導してくれて、とても感謝しています。
- 子供にとって初めての男性の先生で、思春期もあり不安でしたが、とてもいい距離で接して、理解しようとしていただき感謝しています。
- 1人1人をよく見てくれて、熱心に指導してくれるところがいいと思います。
- 生活面、学習面、とてもよく指導してくれていると思う。
- 学校のことや、子供のことで凄く相談しやすい先生たちです。
- 一人一人のことを細かく観察され、適切にご指導してくださっていると思います。
- いつも迷惑をかけ、頭が下がります。
- 担任にかかわらず校長先生をはじめ全ての先生方に色々とお世話になっていると子供達から聞いています。ありがとうございます。

**【考察】**

・どの項目についても、肯定的回答 (A+B)が94~100%である。ほとんどの項目についてA評価は8割前後で高い割合になっている。平均値で昨年と比較するとほぼ同等と考えられるが、Aが8~11% (約1割) 下がっていることを受け止め、5項目について継続して一層努めていきたい。

・連絡相談については「学校について7」において約80%で、昨年度より高い評価を得ている。保護者送迎の際の学校からの声掛け・交流など今後も相談しやすい教職員・学校であるように努めていきたい。また、「教師について1」と関連して、学校での教育活動について必要な事柄については積極的に発信していくようにしていきたい。

・一人一人の児童の観察・把握、声掛け・交流、指導等は、小規模校の長所として生かしていき、個々の児童理解に努め、保護者と共に児童を育てていけるよう、また、学習に関しても基礎的基本的な内容の確実な定着と学力の向上にも努めていきたい。

子どもについて		A	B	C	D	平均
1	子どもは、学校に行くのを楽しみにしている。	65 (62)	29 (38)	6 (0)	0 (0)	3.6 (3.6)
2	子どもは、よくあいさつをする。	51 (59)	49 (26)	0 (15)	0 (0)	3.5 (3.4)
3	子どもは、仲のよい友だちがいる。	66 (71)	34 (29)	0 (0)	0 (0)	3.7 (3.7)
4	子どもは、進んで家庭学習をしている。	40 (53)	34 (26)	23 (15)	3 (6)	3.1 (3.3)
5	社会のルールを守る態度が育ってきている。	51 (68)	46 (32)	3 (0)	0 (0)	3.5 (3.7)
6	子どもは、進んで読書をしている。	43 (44)	26 (32)	31 (15)	0 (9)	3.1 (3.1)
7	子どもは、英語に親しもうとしている。 (新)	37	46	17	0	3.2
8	子どもは、都留文科大学との連携を通して、学ぶ意欲が育ってきている。 (新)	48	46	6	0	3.4

**<子どもについて：ご意見>**

○肯定的なご意見

△要望等

- 学校は楽しいので行くのを楽しみにしています。
- 転校してきて、ついていけるのか心配は多々ありましたが、お友達からも歓迎されて、先生もとても気遣ってくれる姿に安心しております。



△夏休み明けは2学期が始まるのを楽しみにしていたのに、冬休み明けは3学期が憂鬱で仕方ないようですが、本人はそれについてはそっとしておいて欲しいようです。

○6年間をかけ、とてもよい友だちに恵まれ共に育ちあってきたなと感じます。先生方には感謝しかありません。

△まだまだ意欲など家庭で育むべきところできていないと感じることが多いので、たくさん子どもと関わりいろいろなことに意欲的に取り組んでいけるようにしてあげたいと思っています。

○学校が大好きで、毎日とても楽しく通えています。学習も、意欲的に取り組んでいる様子がみられます。

○しっかり学校選びした結果に繋がっています。

○大学生のお兄さんお姉さんが来るの楽しみにしています。大学に見学に行った時も楽しそうでした。その後、大学は都留文に行くと言っていました。

○文大の体験会は、とても楽しいようです。

○こちらに通学してから、とても元気になりました。

○クラスみんなが仲良く、友達の話が出ない日がないほど、学校で毎日楽しく過ごせているようです。残りわずかな小学校生活を満喫してほしいと思っています。

○自分から進んで勉強をしている。

○子供の言行動から学校が楽しい場所であると感じる。

○学校生活をとても楽しんでいるようです。

△家での学習をしたがらない。

△学年が上がってから気の緩みが出てきたと思う。

△もう少し、読書をしてくれるといいなあ…と感じています。

○毎日学校に行くのが楽しいようでよかったです。・毎日学校に行くことを楽しみにしています。2

○年々頑張ってきているとは思っています。

○卒業まであと少しですが、最後まで楽しい小学校生活を送って欲しいです。

#### 【考察】

・1・2・3・5・8について、肯定的回答（A+B）が94～100%となっている。A評価の割合約4～7割と低く、Bと同等かそれ以下のものもある。

・家庭学習や読書の家庭での習慣化については、学校・家庭の連携や協力があって成立するものである。家庭での声掛けや環境づくりにもご協力をいただきたい。

・挨拶については、学校全体で取り組んできた。校内の友だち・教職員以外に、地域の人や信号機で停まってくれた人に対しても広げてきた。相手に伝わる挨拶を心がけ、指導を継続すると共に、子供たちが自覚をして挨拶のできる附属小をつくり上げていきたい。

・仲の良い友だちについて、附属小では、休み時間に同学年以外の児童とも遊ぶ機会が良くあり、全校の他の児童のことを知っている。小規模校ゆえ、組織的・計画的な縦割り班活動の他、休み時間においても縦の繋がりによる交流がよく行われている。

・社会のルールを守る態度の育成について、学校では、生徒指導や児童会の取組として生活目標を掲げて取り組んでいるので、その定着を図って行きたい。

・英語特区・英語専科による授業では、全学年において楽しく意欲的に英語の活動に取り組んでいる子どもたちの姿が見られる。また都留文科大学との連携により、たくさんの体験を重ねることができており、附属小の特色が出ていると思われる。

#### 【まとめ】

・それぞれの項目について、おおむね好意的な評価を得られている。しかしながら、質問項目の回答には、C評価やD評価のついている項目があることも事実である。改善できる点、工夫できる点については、来年度に生かす必要がある。

・また、保護者や地域の方が願いや思いを伝えやすい学校となるために、日常からのつながりを強固にしていきたい。そのために、顔を合わせた人に対して挨拶をすることを学校体制で大切にしていく。保護者・地域の方・教職員の目指すところは子どもたちの健全な成長である。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、通級指導教室等の関係諸機関とつながりを持ちながら、子どもたちのことを考え、互いに意思の疎通を図ることも必要である。

・上記のことを心にとめ、今後も教職員としての自覚を持ち、学び続ける中で、附属小学校の児童が自ら楽しく学べる学校づくりを全職員の総意のもとで行っていく。

# 令和5年度学校関係者評価

(R6.2.16(金)実施)

2月16日(金)に学校関係者評価委員会を開催し、学校から「学校評価」についての説明を行った。参加者からは様々な意見をいただいた。児童の実態や教育課程との関わりを考え、検討した上で、次年度以降の教育活動に反映していきたいと考える。

※今年度は、google form のアンケート機能を活用し、回答については記名式とした。

※いろいろな意見をお聞きしたいと考え、質問に対する回答をすべて必須とした。

(「なし」「(スペース)の入力」による回答を可とした。)

参加者：学校評議員5名、PTA役員2名、校長、教頭、教務主任

## 1 自己評価に関わって(教頭)

- ・学校経営の一部、学習指導、環境教育、情報教育、図書館教育・読書指導について、昨年度評価より低くなっている。その他の項目は、昨年度と同程度かそれ以上である。
- ・評価は4段階であるが、基準は職員に任せている。自己評価が低い項目がある。
- ・それぞれの教員が児童の様子をよく観察し、小さな変化も見逃さず児童理解に努め、丁寧な対応をしている。また、教職員が情報交換し相互理解のもと、全校児童を全職員で指導することができている。
- ・英語専科教諭・ALTが常駐していることにより、授業の充実に併せ、日常的な英語の利用ができている。語特区の特色を生かして英語力の向上につながっている。
- ・保護者・地域・大学との連携が適切に行われている。今後も積極的に取り組んでいきたい。
- ・学校教育目標は、児童にとって分かりやすいものになっており、意識して指導してきた。今後も、様々な場面に於いて、具体的に関連づけて指導をしていきたい。
- ・全学年が少人数であることを生かし、個に応じた指導・評価に取り組んでいる。学習習慣定着や、学力の底上げ、個人差への対応のために、授業以外の朝の学習・休み時間・放課後等も、個々の児童に対応している。今後も継続して取り組んでいきたい。
- ・ICT活用、学習指導について、今後は「学習の個性化」「共同的な学び」に取り組む必要がある。
- ・本講における学校林活動・環境教育は、児童にとって普段はできないとても貴重な経験になっている。内容と系統性を再考していきたい。
- ・児童が本を大好きになるよう、学級・図書室それぞれにおいて取組を行うことが必要である。

## 2 保護者アンケートに関わって（教頭）

- ・保護者アンケートは、好意的な数値が多い。「学校について」、概ね高い評価を得ている。A・Bを併せるとほとんどが100%となる。学校開放について、児童の安全・危機管理について、連絡・相談については、昨年度よりA評価が5%以上増えた。しかし、学校教育目標「やさしく かしこく たくましく」に関しては、A評価が5%以上減っている。特に、1のやさしさ、3のたくましさについては減っており、「やさしく、たくましい子に育てほしい。」という保護者の願いの表れでもあると考えられる。学校の教育活動全体を通じて道徳教育や生徒指導、体験活動の充実、体育指導や運動の日常化など今後も力を入れていきたい。
- ・連絡や情報提供については、今後も積極的に取り組んでいきたい。メールの受信確認については、保護者の皆様にメールチェックへのご理解とご協力をお願いしたい。
- ・本校では今年度より、地域開放日、及びシルバー開放日を設定した。学校の様子をより知ってもらえるよう、地域の方々に分かるようにお知らせしていきたい。
- ・「あゆみ」は観点別評価になり、何が、どのような状況であるのか分かりやすさを求めていると考えられる。個別懇談やなどにおいて、担任が丁寧な説明を行い、理解を得るよう努めていきたい。
- ・「教師について」、A・B評価が94~100%であり、A評価は8割前後と高評価である。ただし、-8~-11%ゆえ、5項目についてしっかりと取り組んでいきたい。本校は児童数が少ないことや送迎の保護者が多いことから、児童の様子について気になることを保護者に伝えやすい環境にある。今後も教師が児童の小さな変化を捉えつつ、成長や課題について家庭と連絡を取り合い、連携して取り組んでいけるように努めていきたい。
- ・「子どもについて」、1・2・3・5・8について肯定的評価(A+B)が94~100%となっている。ただし、A評価の割合が4~7割と低く、
- ・英語特区、環境教育を学校の特色として特に力を入れてきた。常駐している英語専科教諭・ALTの指導により、児童は楽しく英語力を身に付けている。
- ・子どもの家庭学習や読書について、家庭での評価が低く、自己評価と共通している。相互に連携・協力して取り組んでいきたい。
- ・子どもについての評価はここ数年で徐々に上がってきている。C・Dの評価が減っていくような取組を考えていきたい。
- ・今後も児童理解も含め、保護者の理解と協力の下、信頼される学校づくりに努めていきたい。



### 3 出された主な意見

#### 〔地域にお住まいの方への呼びかけについて〕

- ・昨年花植えをした。一緒にこられた方々にお願いして畑の指導などをお願いすることができると思う。先生以外の人と触れ合う機会を設けてほしい。
- ・漠然とした働きかけではだめ。来るチャンスをわかるようにしておく方がいい。学校で手伝ってほしいことを具体的に働きかけしてほしい。
- ・回覧板には効果がない。声をかけた人から輪が広がるような体制を作る必要がある。コーディネーターが必要。
- ・一人一人の子どもが守られて、個が大切にされることが大切。本をとおして、無限大の可能性を伝えていきたい。いろいろな方が進めてほしい。読む経験から心に入ってくる。いろいろなことをしていくのは大切だが、学校にできないこともある。それを地域に投げかけていけばいいと考える。

#### 〔児童の学びについて〕

- ・大人は失敗が見えているから無理と言ってしまいが、失敗から学んでいくことが必要。
- ・学校林に蜂や蛇がいたのは残念でした。というところが気になりました。残念ではなくそこから学ぶようにしてほしい。
- ・あぶないから行かないでは残念だから。

#### 〔自己評価が下がっていることについて〕

- ・先生の自己評価が低くなっているのが気になる。もっと上がっていてよいと思う。
- ・世の中の情報を聞いて、それと比べていくと自分のことを考えていくと自己評価が下がってしまうのではないか。
- ・大事なのは先生方の気持ち。

#### 〔タブレットの活用について〕

- ・タブレットの使い方は学年によって頻度が違うのか。低学年が-低いような感じがするが。

#### 〔英語特区について〕

- ・英語特区の評価、利点をはっきりしていく必要があるのではないか。都留市全体に広げていくための手立ては。教育委員会が知って動かなければならないことだと思うが。
- ・英語の発音の良さを、この前の発表などの時に使えるようにしたらいいのではない

か。日常的なことの中で英語を使っているような点をアピールしていく必要があるのではないか。

〔活動のアピールについて〕

- ・HPに音声や動画をアップできるようにしたらどうか。
- ・学校林なども学校としてアピールしていくとよいと思う。

#### 4 まとめ

〔学校長より〕

- ・地域にお住まいの方々へのボランティアの願いは、学校評議員さんを中心に投げ掛けていくと思うので、ご協力をお願いしたい。
- ・経験や失敗から学んだことが、その後の生活や人生で生かされることはある。失敗を恐れず、あきらめずにチャレンジして、前向きに取り組んでいく児童を育てていきたい。
- ・先生方も同じである。失敗しても精一杯やったことから得ることは大きい。先生方が、子どもたちが学ぶ喜びを感じ、そこから子どもたちが成長していく姿を見られるよう、力を合わせ頑張っていきたい。
- ・児童用端末（タブレット）の利用について、普段使いを増やし学習道具として活用できるように全職員で進めていかななくてはならない。そのためにも、研修できる時間を確保していきたい。
- ・英語を日々の生活の中で使えるよう取り組んでいる。（朝昼帰りの放送，給食メニューの放送，職員室への出入り時，朝帰りの挨拶等）
- ・英語特区という附属小の特色を，市内に広めていくよう取り組んでいきたい。

〔まとめ〕

- ・この会を通じ、学校・保護者・地域の方すべてが子どもたちの成長を願っていることを改めて確認することができた。来年度以降も保護者や地域の方の期待に応えるために、学校長がまとめた内容について実践していけるようにしたい。
- ・今年度の本校の教育活動を振り返り、学校による自己評価、保護者アンケートを実施した。回答していただいたこと、また記名式と言うことにも感謝申し上げたい。率直なご意見、ご感想もいただき大変参考になった。いただいたご意見を真摯に受け止め、来年度の教育活動に反映していけるよう努力し、対応していきたいと考えている。今後とも、保護者、地域とともに、全職員でよりよい都留文科大学附属小学校をつくりあげていきたい。